

令和7年度 第三者モニタリング・評価により把握された内容及び対応策

1 概要

施設名	吹田市立市民公益活動センター	所管部室課名	市民部市民自治推進室
実施日時	令和7年11月26日(水曜日) 10:00~11:00	実施場所	吹田市立市民公益活動センター 会議室

2 助言等の内容及び対応策

No.	助言等の内容	対応策	評価項目
1	相談を重視し、ニーズを常に研究し事業化する取り組みは事業継続の観点で評価できる。	相談から見える市民ニーズ及び公共政策から見える社会の変化を注視した事業運営に引き続き努めます。	1 管理運営内容 (1) 事業運営
2	職員自身のスキルアップにもつなげるため、職員を講師ができるように育成したり、チラシやニュースレターを職員が作成することで、運営コストを削減につながっている。	これまで蓄積してきたノウハウを活かして、コストパフォーマンスの高い運営に引き続き努めます。	1 管理運営内容 (2) 経費縮減
3	「おすそわけマーケット」や使わなくなった古着やCDなどの寄贈もボランティアの一つとして、気軽にできる社会貢献の提案を行い、省資源を推進している。	施設運営における環境配慮だけでなく、市民と共に社会全体の省資源に繋がる取り組みを引き続き展開していきます。	1 管理運営内容 (3) 環境配慮
4	すでに利用者の満足を確認するための一定の仕組みを作っていることは評価できる。	公共施設として、様々な利用ニーズに対応できるよう、引き続き市民の声を反映していきます。	2 利用者満足度 (1) 利用者対応
5	利用サービスの向上・促進について、新たにコーヒーの提供を通して雑談する事業を行うなど、元々目的にあった専門的な事業に加えて、初心者でも気軽に受講でき、また近年必要とされるAI講習等、さまざまな事業に対して変化に適應している姿勢は評価できる。	多様な切り口を設け、気軽に利用できる施設を目指すことで、市民公益活動へのハードルを下げるとともに、市民にとって身近な施設となるよう努めます。	2 利用者満足度 (2) 利用者サービス
6	利用者への告知方法は、SNSを媒体別に使い分けて、若年層への取り組みにも尽力し、そのノウハウを伝える役目も果たしている。可能なタイミングで、登録者(フォロワー)が自分たちの活動を広げたい時に情報を周知し、拡散できることをルール化し、「つながる」「つなげる」ことが求められる。 若い世代はデジタルネイティブの世代になるため、徐々にデジタル化とリアルとの融合を目指す仕組みを構築してもらいたい。 ただし、リアルの価値こそ当該組織においては、特に追求して頂きたい。	SNSの活用については、センターの認知度向上だけでなく、団体の広報支援にも繋がるよう、取り組みを展開していきます。 また、情報化社会において、リアルでしか得られない情報や人との繋がりをセンターの運営を通じて提供していきます。	2 利用者満足度 (2) 利用者サービス

No.	助言等の内容	対応策	評価項目
7	令和7年3月期の赤字は、主に、現在の常勤職員と同じ"多能な"対応ができる人材を雇用する必要性と、市民公益活動という分野に対応する人材の難しさもある中で若い人材を育成する必要性を中長期的に見据えて新たに職員を採用したものであり、活動継続の姿勢は評価出来る。ただし、その職員は退職したとのことであり今後は定着が課題といえる。 赤字への過年度剰余金からの補填には、限りがあることに留意されたい。	ご助言いただいた通り、経営状況にも留意した上で、引き続き人材育成に尽力いたします。	3 サービス提供の継続性及び安定性 (1)施設の管理運営に係る経営状況 (2)指定管理者の財務状況